

# 健康な人こそ、がん検診を受けましょう



「がん検診」では、「早期がん」つまり症状がでる前のがんを発見し、治療することが重要です。

そのため、対象者は特に自覚症状のない(つまりがんがある可能性がごく低い)、健康な一般の方となります。がん検診とは、このようにがんのリスクの低い沢山の健康な人々のなかから、「検診」というふるい※にかけて、がんの疑いのある人を分けるためのシステムです。ふるい分けられたがん疑いの人にのみ精密検査が行われます。これに対し、自覚症状があり、病院を受診した患者の方は、健康な方に比べ、がんの可能性が高く、ふるい分けのための検査では不十分です。そこで、診断を目的として最初から精密検査を用います。

※「検診」の語源のscreening(スクリーニング)という英語は「ふるいにかける」という意味です。

早期がんでは  
症状はほとんど  
ありません



図1 「検診」と「診療」の違いについて

## 検診

対象

- 健康で生活に支障なし
- がんの可能性は低い  
(1,000人中せいぜい数人)
- 見つかるがんは多くが早期がん

「検診」は、自覚症状がない人が対象なので早期がんが発見されることが多い



検査 ふるい分けの検査(便潜血検査など)

## 診療

対象

- 症状があり困っている
- がんの可能性が高い  
(数人にひとり)

自覚症状が出てから病院へ…

「診療」で見つかるがんは、往々にして進行してしまっていることが多い



検査 精密検査